

平成27年度第2回宗像市郷土文化学習交流館協議会議事録

- 日時：平成28年3月25日（金曜日） 14時から16時30分
- 会場：海の道むなかた館 講義室
- 出席者：亀井会長、樋田副会長、海出委員、河窪委員、園元委員、藤委員、藤本委員
【事務局】 西谷館長、福崎部長、柚木課長、徳永室長、灘谷局長、白木係長、広渡係長
判田主査、磯部技師

1 会長あいさつ

○会長

今日がわれわれの任期の第2回目ということです。今日は協議会を早く切り上げて世界遺産のユネスコへの推薦書が出ているということでそれのご説明をしていただくということと、もう1つは、世界遺産の4月から館の展示のアプリが稼働することなのでそれについても実際に試していただきたいということです。ですので少し早めにしたいと思いますので、よろしくお願いします。

2.報告事項

(1) 平成27年度第1回宗像市郷土文化学習交流館協議会議事録について。

○会長

報告事項の(1)協議会議事録についてですが、早めに送付されてきておりましたのでお目通しいただいたかと思います。特にご自分の発言のところ何かございましたらご指摘いただければと思います。

○副会長

単純ミスだと思います。2 ページ目の真ん中の発言が樋田となっておりますが、私は遅れてきましたものですからこれはどなたかほかの方だろうと思いますのでご訂正をよろしくお願いいたします。

○事務局

はい。わかりました。

○会長

他にございませんでしたら、これで承認いただいということにさせていただきます。

(2) 平成27年度 宗像市郷土文化学習交流館事業の状況について

資料2：平成27年度海の道むなかた館催事一覧表

○会長

資料2を事務局にご説明いただきます。

【事務局説明】

○会長

今のご報告について、ご質問やご意見がございましたらお願いします。

○委員

今更なにをですが、来館者の数は図書館にこられている方もカウントされていますか。

○事務局

ここの館の来館者のカウントにつきましては、出入口2か所にございまして裏口から入って図書館

に入られる方もこのカウントに入っています。

○委員

続けて、アンケートの回答者の数が少し少なすぎかなと思いますが、もう少し母数が多い方がもっとより良い意見を取り上げられるのではないかと思います。20回以上も来館されている方というのはどうなのでしょう、図書館にこられている方もあるんじゃないかと思いました。

○事務局

今回、初めての試みということで地域学芸員の方自らが聞き取りながら書いていただいたという事もありまして、今後アンケート等も母数が増えるような形の考え方も取り入れながらやっていきたいと思っています。こちらのアンケートは、特別展示室の中でとっております。もちろん図書館の利用者もいらっしゃるとは思いますがとった場所は展示室の中ということでございます。

○会長

アンケートというと書く方もうんざりするものですが、来館目的の中に複数回答可として図書館や展示目的、その他として入れておいてもいいのかもしれないですね。ご検討いただければと思います。ではほかに。

○委員

2点ほど、取り組みの中で北斗の水くみの云々につきましては、我々、地元コミュニティとして今後の世界遺産とは別に離れていますが、売り込みをする、または、売り込みのしやすいものであろうかと思います。福津市で宮地嶽が売り込みしましたね。あれに負けられないだけの、あそこはそれだけのものがあるんです。ただ造りました。幸せの鐘もありますよ。北斗が見えますよ。ただそれだけで放置されている、これから先は行政の企画力ですよ。民間企業のツボだとトヨタですよ、トヨタを引っ張ってきて全国的に発信できるようなCMができないかと行政にお金を出せというよりアイデアですよ。そういう風な形でもっていくならば世界遺産の中にそれがあつて訳ですからそれはやはり皆さん真剣に考えて取り組みをする必要性があるのではないかと。あらゆる方法手段を使って。館の通路に北斗の写真がありますが、素晴らしい写真ですよ。あれを活かさなくて何を活かすのか、世界遺産に埋没することなく、前向きに取り組んでいただきたい。トヨタに行くのであれば私が行ってもいいと思います。売り込みしないと、行政はじっとしたらいけないですよ。これから先は、わらじを履いて動いてください。

それともう1点、宗像大社の車の駐車台数を見るのですが、やはり皆さんかなり関心があるということで増えている状況の中において先ほど説明がありました入館者の数が昨年と同じぐらいだということそのもの自体が私は、宗像大社と世界遺産の関係の売り込みが足りないのではないかと。連携プレイをとりながら少し頑張ってもらって何かやはり対応を検討していただきたい。はるかにそのものを超えていますよという数字が出ていると思っていたので去年と同じぐらいであるならば、あの騒ぎは何であったのかということですよ。これから間違いなく増えてはいくでしょうけれどもそこも再度検討をお願いしたいと思っております。

○会長

今のご指摘ご意見について何か。

○事務局

検討させていただきたいということと、北斗の水くみ公園につきましては、むなかた電子博物館さんにいろいろな取り組みを行っていただいております。ここの中で商工観光課にもその旨を働きかけておりましたところと歩調を合わせながら検討を進めて参りたいと思います。北斗の水くみ公園というのは、北側に海があって、北緯32度から33度の間でないと見えない現象ですのでごく貴重な立地条件であることは間違いございません。これについていろんな検討をしていきたいと思っております。来館者については真摯に受け止めて今後の算段や取り組みに活かさせていただきたいと思

ます。

○会長

それではこの件については、昨年度末に今年度27年度の計画案を了承したわけですが、計画は100%達成と考えていいですか。

○事務局

イベントについては、着々と進めさせていただいています。来館者数につきましてもお叱りもありましたが、目標に達成するような形で、今の目標は低い設定となっておりましてその設定を上げるようにかえているところですのでその中で頑張っていきたいと思います。

○会長

我々の協議会ではご報告いただくだけで実務はわからないのでこの館がオープンしてからこういう協議会ができて毎回ご報告いただいております、そして年度の年報もできているのでやはりそれぞれの年度プラスマイナスを検討されて一歩でも良くなるようにしていただきたいと思います。

それでは27年度の事業の状況については了承いただいたということによろしいでしょうか。ほかにお気づきの点があればどうぞ。

○委員

質問ですが、年間来館者数の内訳にアンケートをとった中では、県外の方も含まれるということなのですが外国人観光客の方もいらっしゃるのですか。

○事務局

数はわかりかねるのですがいらっしゃるの間違いありません。お見かけする程度なので実際のところどのくらいのボリュームかはとっていませんが、英語のパンフレット等用意させていただいてそちらも時々追加している状況ですので多文化の来館者の方はいらっしゃいます。

○委員

なぜ質問させていただいたかといいますと、世界遺産の推薦が決まりましたので海外の方が来られて展示品とかそういった外国の方にむけての対応の仕方などを考えられているのかなと質問させていただきました。

○会長

たとえば12月の企画展のところで金海の経費で金海の方から誰か来たとか、担当者ではなくてそういうきっかけというのはありましたか。

○事務局

直接は聞いておりません。今回の金海のパネル展をこちらで開催させていただくにあたりましては、金海の方では沖ノ島のパネル展をやっていただきまして逆にわれわれの方に金海のパネルをいただきこちらで調整して展示させていただいたという経緯がございます。

○会長

せっかくそれをされているのであれば、ものだけではなくて人も行き来するとよりいいのかなと思ったりもします。

他にございませんのであれば次へ

(3) 国内推薦『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群』の現状と今後について

資料3：文化庁報道発表資料

○事務局

【資料3について説明】

○会長

ありがとうございました。世界遺産関連の状況についてご説明いただいたということですね。これにつきましてご質問等ございましたら。

○委員

ちょっと主旨とは違うのですが、最初に沖ノ島の世界遺産運動をはじめたスタートのころに宗像神社という名称を使っておられたのでその時に今の正式名称は、宗教法人宗像大社であるので宗像大社にした方がいいのではないかと申し上げましたが却下されました。でも今見るとちゃんと宗像大社になっているなど思ったところでございます。

○会長

これは、正式にいつごろからかわったのですか。

○事務局

国の史跡となった時の史跡名称が宗像神社だったんですね。それでずっときておりました。しかし宗像大社で定着しているし、よく知られているからということで宗像大社になったんですけど、正確には暫定リスト段階ではどうでしたか。調べればすぐにわかります。

○会長

せっかくのご指摘なので調べておいていただければと思います。

それから聞きかじりなのですが沖ノ島の小屋島、御門柱、天狗岩、戦後のはなしだったかな、宗像神社、大社の境内が入ってなかったはずと思います。確か所有権が浮いているようなかたちだったので釣り人が勝手に入っているとかあったのですが、今度これを独立してあげることになると大社の方の境内に組み込まれたのでしょうか。所有権の問題はどうなっているのでしょうか。

○事務局

今この作業をしているところですが、今のところ大社の所有であるということを明確に示す文書などはありません。所有者がいない状態です。所有者がいないということは、国庫に国の財産として帰属されるというようになっております。そして所有者がいないけれどもその管理を宗像市がするというので登録文化庁には話をしているのですが、これをなんとか国ではなくて宗像市や宗像大社の所有として登記ができないかと協議を進めているところです。

○会長

宗教と政治と国の関わりには難しい問題があるのでその辺も絡むと思います。この際この関連についてご意見等ございましたらどうぞ。

特になければ3番目の国内推薦「『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群」の現状と今後についてはこれで終わります。

(4) 世界遺産登録推進室の事務所移転について

○事務局

来年の登録に向けて来訪者対策をどうするか、大島に渡ろうとしている人たちをどのくらい大島に渡して満足いただけるか、その人数に果たして適正な数字があるのか、どうやって啓発をしていくのか、守っていくのか、庁内の各部署と頻繁に会議を重ねておまして本庁に出向くことが非常に多くなりました。多い時で日に4回行く機会が必要な状態がありまして、まずは登録に向けてしっかり足元を固めるために、本庁舎内の駐車場の敷地内にあるプレハブに事務所を移すことになりました。ただ、この建物は、世界遺産になった後は、世界遺産センターができるまで、暫定的な位置づけがありますので、ここが世界遺産の拠点になることは間違いありません。地域学芸員の皆様とさらに連携しながら今後の登録活動を行っていきたいと思いますし、登録が決まれば、全部じゃないにしても一部がこの拠点に入る必要があると思っていますので、またこちらに出戻りでもどってまいりますのでよろしく願いいたします。

○会長

世界遺産登録推進室の利便性を重視して、移転されたということですね。この点について何か質問があればどうぞ。

○委員

私ども地域学芸員にお忙しい中、2日間にかけて同じ説明をしていただきました。今、登録になればセンターとして戻ってこれると聞き、安心しました。その時に一番感じましたのは、私どもが展示室におりまして一番興味をもってみえるお客様は、世界遺産のことについてなんですね。事務的なことや対外的なことで世界遺産推進室が本庁に戻られるということは私どもも理解しております。でも、ここに来館されるお客様にとりましては、やはり世界遺産を目指してここにこられるわけですから、世界遺産が移られるのとお客様がこられるのと反比例するような感じに思うのですが、むなかつた館といたしましては正式なセンターができる前までは、こちらセンターのようなものですが、ほかにもむなかつた館としての役割もあると思うのですが、その辺の考えをお聞かせいただけたらと思います。

○会長

やはりガイダンス施設は必要だろうということで大島資料館をガイダンスセンターに改修しようという計画をしております。そのガイダンスセンターとこむなかつた館の展示替えをどう連携させるかを含めて、今後郷土文化課と協議をしていこうという話をしております。世界遺産の特別展みたいな展示ができるように28年度より協議をしていくようになっております。

○委員

それで先ほど委員がおっしゃいましたように宗像大社に来られる方が増えているにもかかわらずこちらの館はそれほどでもない。私が以前神宝館に参りまして説明していただき、そこにいらした方が協力してくださって「女性は沖ノ島にいけませんけれどもむなかつた館でそういうことを3Dで放映しているのでぜひご覧ください。」とおっしゃったんですね。私も「もしわからないようであれば、私がご案内しますけど」と申しましたら、ガイダンス施設よりもまず実物をもう一度見たいという感じでした。

こちらは、ガイダンス施設があつて宗像大社があつてだったらいいのですが、まず宗像大社があつてガイダンス施設になっているので時間に限りもあつてこちらに足を運ばれないことも多いかと思われまのでそういうことも含めて新しい施設をつくられるときには参考にさせていただければと思っております。

○会長

宗像の神宝館は大社の施設でこちらの館は市の関係なのでその辺が難しいところかと思えます。

○委員

皆さん時間も限られていてまずは本物をみたいと。

○会長

普通だったらこちらのガイダンスで予め情報をゲットしておいてむこうに行くのとよりよくわかると思うのですがガイダンスセンターの問題も含めてよろしく願います。

では報告事項4件これで終わらせていただきたいと思います。

3. 平成28年度宗像市郷土文化学習交流館事業計画(案)について

資料4：平成28年度海の道むなかつた館年間スケジュール(案)

○会長

事務局よりご説明願います。

【事務局説明】

○会長

ありがとうございました。ご質問・ご意見をどうぞ。

○副会長

内容的には、議事録にもありましたようにこちらの職員の方が企画をされるという事で大変楽しい企画展が開催されるかなと思います。質問させていただきたいのは、広報に関するところかと思いますが、今はネットで検索する時代なのでこの館の紹介を見るとき、宗像市のホームページと電子博物館から入る場合と、こむなかた館から直接開く場合とで紹介の色合いが少し違います。これは、お作りになっている方がそれぞれ違うのか。それとむなかた館を開くと申込みの要領などができます。電子博物館を開くと海女の企画展をしましたとか出光佐三のお話のなどがカラーでできます。宗像市の場合は入り方が違っていています。もったいないなと思って、例えばむなかた館を検索しても同じようにでてくると過去やったものはこんなものを開催しましたというような内容が素晴らしいものなのでアピール度も高いし、今後開催するものについても申込みだけではなくてセールスポイントを載せられるととっても効果的かなと開いて思ったものですから作成者についてのお尋ねでございます。

○事務局

まず、宗像市と海の道むなかた館のホームページは、同じところが作っておりまして宗像市から入っても最終的にはむなかた館につながるようになっています。その流れは、市の施設ですのでホームページ自体は、ここが管理していましてその中の一部分をうちが持たせてもらっているということです。ホームページ自体は1つの構成で作っております。むなかた電子博物館というのは別の組織団体が運営しております。これは宗像市の自然や歴史などをもこの館がない時代から博物館があるのではないかということで電子媒体上の博物館として開いたという経緯からはじまっております。内容については特に館のイベントなどについてはむなかた館のホームページに載りますが、例えば、文化財の報告書は電子博物館の中で掲載しています。詳しい部分とそうではない部分という形でなんとなく棲み分けされておりまして、電子博物館の方は、宗像電子博物館運営協議会というところが運営されておりまして、宗像市が市民協働委託という形でお願いしているということです。

○副会長

そうすると電子博物館で作られたものをいただいて、こちらの方に入れ込むということは難しいということなんでしょうか。

○事務局

それはそのような事ではなく、電子博物館にたいへん詳しく載っているというものがあり、他のところでご紹介させていただきますが、そちらの情報が知りたいというニーズというものがございましてそういった部分とリンクして保管するような体制を整えているところです。副会長が言われるように前段のニュアンス的なものをホームページに載せることはできますがうちの館については体験学習等がメインになるのでどちらかという博物館的な蓄積の部分が電子博物館ではねらっているようなイメージでなっております。今密に連携をとっておりますので載せるということはできます。

○副会長

わかりました。

○会長

本来海の道むなかた館の情報を見たい時に入る時と、市のホームページから入る場合も基本的には同じ内容のところにとぶということが前提ですよね。そういうところから電子博物館をクリックしてとんでいくのはいいのですが少しむなかた館でいろいろ出されているパンフレットやデータがある時期は、こちらのホームページで見ることができ一定すると電子博物館の方で保存してもらおうとかそう

いう役割分担はあるのですか。

○事務局

今のところ明確な役割分担はございません。どちらかというと文化財の報告書1つとってみまして、もむなかた館のホームページではもっておりません。報告書については全部電子博物館側が掲載しているという形です。文献ものは全部電子博物館がやっている状況です。

○会長

例えば、報告書であればもむなかた館のところに窓を作っておいてクリックすれば、パッととぶというそういう感じですね。

○事務局

この会議が終わったらそういうところのご紹介をさせていただきたいと思います。

○会長

これは今、市のお金で運営されていますよね。そうすると市費であり公金であるということから縛りがある部分はあるのでしょうか。何が言いたいかということある事業をやりたいがその予算は市費から出すということだとできないということが理論的には有り得ますよね。そういうことはありませんか。

○事務局

企画の内容によっては、行政が立ち入れない部分があるとは思いますが。例えば政教分離の関係で宗教色の強いものについてはできないとか政治色の強いものについては遠慮するとか、ある程度フィルターをかける必要性があるかと思えます。

○会長

いろいろ問題はあるかと思っていますが、例えば博物館が友の会のようなものを作っていて、もちろんボリュームの問題があつてなかなかできないし、また友の会が大きくなりすぎるといろいろ差し障りもでてくることになるかと思いますが、そういうことを念頭において予算の問題や企画の問題、そしてニーズをくみ上げるのでそんなことをお考えになったことはありませんか。海の道もむなかた館として宣伝をよく検討して差し障りが出る等よく検討しなければいけません。

○事務局

すみません、私が過去を知らないものですから私が配属されてきてからの2年間についてはその議論はやっていない状況です。

○会長

それは、うまいこと運営して組織をやらないと課本来の運営にうるさいことになってくるので問題だとは思いますが、そういうものを作つてうまいこと運営していけばお互いにプラスになることはないのかなと思っただけです。また機会があればお考えいただければと思います。

○事務局

それとは主旨がことなるのですが今模型の話を見せていただきましたが模型作品展示会と言えば、コスト的な行政負担はゼロでやっています。これが今市民の方や模型に対する趣向をもらっている方々に下地をおさえていただき展示をしていただき、企業がそれに対して販売もしてもいいよと。その代り、出展者へ賞品を出してください。またPRをしてここを盛り上げてください。行政としてはこの場所を貸し出しますよ。その代り、もむなかた館は、もむなかた館の利用として模型であるとか、はにわを展示させてください。そのような要望をしながらそれぞれの役割分担でコストゼロで2回目になりますが開催しました。役割分担でそれぞれのニーズにあった関係を築きながらイベントを開催させていただいています。

○会長

ここはこのスタンスで他にないものを作っただけだとありがたいです。

○委員

博物館として特別展が一番大きな活動になると思うのですが、頂いているこの特別展の案が大ざっぱすぎてわかりづらいと思います。春は稲元八幡宮を中心とした地域遺産ということのようですがどういふものを展示するのか、具体性に欠けてよくわかりません。私どもに分かるようにご説明いただきたい。同じように秋の特別展もつかみどころがない主旨だと思います。特別展としてどういふようにまとめるのかご説明いただきたいと思います。

○事務局

春の特別展については、稲元地区の稲元八幡宮という神社がある関係でその拝殿がこわれそうで、地元の宗像むすびの会という団体の方々と連携して稲元神社所蔵の絵の史料を中心とした中から稲元の人々のくらしを描き出そうというところだろうと思っています。これについては時間もないのですが走りながら考えているところでございます。

それから秋の特別展、きっかけは、山田の経筒が今回、東京国立博物館に所蔵されているということからの企画でございます。その中で山岳信仰などをまぜているので少しわかりにくいかもしれませんが、準備しているところでございますので、ご相談させていただいていただきたいと思います。

○委員

秋は、私でお力になれることでしたらご協力させていただきたいと思います。春はひとつの地域を取り上げてやるには意義付けをきちんとしておかないと。宗像市イコール稲元ではないので、いろんな地域のコミュニティの方や古い集落もあるので、今回稲元を取り上げた理由はなにかとそれが宗像の中にフィードバックしてどういふ意味づけがあるかをきちんと内部でおさえておかれた方がいいのではないかと思います。

○会長

稲元地区を取り上げたら宗像市内にはいろんなコミュニティセンターがあつて地区があるわけで、たとえば八所宮などいろんなところがあるわけですが、そういうことを頭の中におかれて順次そういう地区を回って行こうかなという中での取り組みでしょうか。

○事務局

各地区の地域史を稲元がモデルケースでやるということです。稲元からはじめて各地区を目指しているのは会長のおっしゃるとおりです。

○会長

ご指摘もありましたが最初の第一歩が大事なので、時間が限られておりますけども、さらによりよいものに向かってご検討お願いいたします。

それでは3. 議事という次年度の計画案についてはこれで検討を終わらせていただきます。

○事務局

最後になりますが企画展案の日程はまだ未定の状況で確定しておりませんのでご理解をお願いします。

○会長

最後の4番目その他になりますが事務局より何かございますか。

○事務局

ありません。

○委員

当協議会に直接関係のある話ではないのですが東海大学に観光文化研究所というものがございまして宗像市の商工観光課とコラボレーションしまして今年2年目になりますがいろんな観光効果調査をやっております。いろんな設問をやっているわけですが、1つだけご紹介したい内容があります。去年

と違い今年宗像市における1人当たりの消費単価が去年は2500円と日本国中で異様に低いです。去年の10月に実施をしたアンケートの結果が4500円、なんで増えたのかの分析をいくつか見ていきますと、大島が増えた、宗像大社が280円から350円に増えた。あるいは宿泊が増えている。ここの館のアンケートにありましたように、宗像市外や国外からが増えている。それらに共通する線が何かというところは世界遺産なんですね。世界遺産で増えていることは事実です。アンケートには直接文章でお書きいただくところもありますが、大社周辺のいろんな希望が出ています。何か買いたいものが買えない。たいへんすばらしい施設海の道むなかた館があんな遠いところなんですかと。あんな遠いところというのは知らない人から見ると大社があり大きな駐車場があってそのはずれにあるということらしいです。いろんな意見があり、今後議会を通して発表されるでしょう。その後具体的な施策となっておりてくるでしょう。いずれにせよ宗像市の世界遺産のポジショニングをどういう風に考えていくのかと関係なく世の中が世界遺産で動いていることは事実です。整理をして先に先に準備をしておかないといけない。宗像は、世界遺産という4文字のキーワードでいろんなものが増えていることは事実です。細かいデータは市経由で発表されると思いますのでぜひともその辺を注目いただきたいと思います。

○会長

議事録の件ですが、年に2回ということですので4回目の議事録は、9月に会議があったとして10月以降、新しいメンバーの方の任期の時にできあがることとなります。この中には来期におられる方もいらっしゃると思いますが、そうすると第4回目の議事録は実際に議論したメンバーは目を通さない。そして次のメンバーは、それを知らない。それで第4回目の議事録はそのメンバーで確認をすると館の方より送っていただき、訂正や修正がないかを確認し、訂正や修正がなければ、当時の会長・副会長のところで承認をして正式な議事録とするという手順をふんだ方がいいのではないかと思います。そうでないと誰も知らない所で第4回目の議事録が確認されてしまうことになるのでそのようにしたらどうかと思いますがいかがでしょうか。

それでは、4回目の議事録は、そのような形とさせていただくことでお願いします。

○事務局

はい。今回の議事録は、現委員の方にご確認いただくということにいたします。どうぞよろしくお願ひいたします。

○会長

それでは4. その他も終わりましたので最後に副会長のごあいさつをいただきます。

○副会長

感想を述べさせていただき、ごあいさつにかえさせていただきたいと思います。今日は、少し早めにきましたので展示室に入りました。入るとすぐにボランティアの方かと思いますが近くにきていただき、パンフレットをいただき「ご説明いたしましょうか。何かわからないことはありませんか」というお声かけをいただきました。とてもうれしくてこういうお心遣いや配慮が入館者を増やすことへとつながっているのだと思いました。私が反省いたしましたのは、入館者を速報値を見て私はすごいなあと思いがちになりました。そういう発言をさせていただこうと思いました。24年度の10万人だったものがもう16万人と。数年間でこれだけ入館者数が増えたのは、すごい。お正月に開館されたり、いろんな企画展をやっている、宗像市をはじめ、企業その他いろんなところと連携していること、賜物だなと思いがちに見ていました。おそらく県内の優秀な施設でも年間15万16万入館者数や利用者数を確保することはとても難しく、本当にやきもきしながら人数の確保に努めています。私は福岡市民ですが、宗像市民の方の勢いというものすごく高く評価しているところがございます。その一端をうかがった気持ちがしました。世界遺産登録の機会を逃さずもっともっと伸びていこうという勢いを宗像市に感じたところがございます。併せて先ほどホームページのこと

を申し上げましたがホームページの入り方が違うなど気づくのですが、むなかた館を開いてもいろんなところにつながっている情報がリンクしながらでも、ずっと見れる、そして世界遺産へも辿り着ける。どこを開いても辿り着けるように入れるといいのかなと思います。協議会の委員の皆様方、事務局の皆様方、今後もお力添えをいただきながらこの館が繁栄していくことを心より願っているところでございます。本日はどうもお疲れ様でした。

○事務局

委員の皆様には貴重なご意見をいただき、たいへんありがとうございました。今後の当館の運営に反映、活用させていただきたいと思っております。

私なりに思ったことを2、3申し上げますと、まず1つは、宗像大社にあれだけのお客様が aumentando いるのにこちらにあまりお越しただけでないという、これは前回もその前も言ったことですが、いかにお参りの方をこちらに呼び込むかという大きな課題でございます。やり方としては、例えばのはなしですが誰がやるのかという問題もありますが、我々が出て行きチラシをまいて呼び込むとか、あるいは、地域学芸員の方々にそういうことをやっていただく、開館最初のお正月には学生アルバイトを雇いましてキャラクターの被り物をかぶり、のぼりを立ててこちらにぜひと呼び込み、その効果は十分ありました。いろんな対応策はあろうかと思いますが大きな課題でございます。

九州国立博物館が開館する際に天満宮にお参りされる何百万の方々から1割来てもらえば何十万の来館となるとそういう話がありましたが、今では逆に国立博物館に来た人がついでにお参りしています。そうあるべきで、九州国立博物館が次から次と大型の国際的、世界的、あるいは日本の国宝展を開催しています。

博物館はやはり独自の企画・運営で魅力があり、楽しめるそういうものをいかに運営しているかということでございます。こちらに来た方がついでに大社にお参りするようにならなければいけないと思っています。そういう意味で新年度の計画をいたしましたのが年間特別展2回と企画展を1回です。春夏秋冬、四季折々に企画展や特別展をやるべきだと思っております。正月のイベントはありますが冬にもう1つぐらいやるべきだったのかなと反省しております。今後課題として取り組んでいきたいと思っております。

それから第2展示室の利用も十分ではないのでこれも大きな課題です。過去に第2展示室にカメラの展示会をやった時に新聞の掲載もあってかなりお客様が多かったです。もっともっと第2展示室に展示・企画そしてPRをし、地域学芸員の方々にも勧誘をお願いするとか、いろんな対応策があるかと思っております。そういう意味では当館の第1展示室で地域学芸員の方々が「当館をご覧の後は、ぜひ神宝館をご覧ください」と案内されています。そのような連携もたいへん大事かと思っております。

世界遺産に関しては、中心は神宿る沖ノ島でございますので、その紹介として3Dのすばらしい映像を流しております。当館としては、3D映像が目玉でありこれに尽きると言っても言い過ぎではないと思っています。神宝館の国宝8万点、宗像大社、さらには沖ノ島の臨場感あふれる映像、これが沖ノ島に関する最大のことでないかと思っております。世界遺産推進室が本庁に移りますが、連携をとりながら、沖ノ島と関連遺産群の価値が十分伝わるようになお一層の努力をしてもらいたいと思っております。今後ともご指導のほどよろしくお願いいたします。本日は誠にありがとうございました。

「むなばく」の説明。その後、委員からの質問